



コロナ禍における在宅医療

高島町在宅医療介護連携推進協議会医師部会会長 門脇 仁



2019年12月、中華人民共和国の湖北省武漢市で肺炎患者の集団発生が報告されました。この新型コロナウィルスの感染は世界中に拡大し、WHOは緊急事態を2020年1月30日に宣言しました。日本国内では1月16日に初めて患者が報告され、2月1日に指定感染症2類に指定されました。海外と日本の感染による死亡状況を比較するために人口10万人当たりの死亡者数をみると、ワースト1のベルギーは2021年1月31日で、439,405人ですが、人口10万人あたりに換算すると世界9位の133となります。ちなみにドイツの場合は人口10万人当たりの死亡者数は68.1となります。日本はこんなに死亡者数を抑えているのです。（下記図表参照）

それなのに、日本では緊急事態宣言の1か月延長が発表されました。東京、岐阜、大阪、京都、兵庫、福岡の10都道府県で3月7日まで飲食店の時短営業が継続されます。東京商工リサーチによると、新型コロナウィルスが原因の全国企業倒産件数が1,000件を超え、関連の失業者数は84,773人。

また、2021年1年間の休業・解散と倒産企業の合計は57,471件。2020年は約1.5%の国内企業が市場から撤退・消滅したことになります。今後、時短要請が延長されることで飲食、宿泊業、小売り（特にアパレル）などの業種でさらなる休業・廃業、失業が増えると思われます。入管庁の統計によると、2020年11月1日から2021年1月3日までの2か月余りに日本に入国した外国人は97,716人。国籍別にみると中国が31,835人。ベトナムが29,549人。インドネシアが6,783人でした。この3か国だけで、計68,167人であり、入国者全体の約69.8%を占めています。政府は11月1日から入国制限を緩和していました。これだけの外国人が入ったのでは新型コロナウィルスの国内感染拡大を防ぐのは容易ではないと思われます。中国、ベトナム、インドネシアからの入国者68,167人のうち在留資格は41.1%、技能実習生が40.8%で合わせて81.9%。留学といっても一定期間の労働が認められているので実際には、外国人労働者として入国しているわけです。

さて、やっとワクチン接種が始まろうとしています。が、効果のほどはやってみなければわかりませんが、安心感があります。そんな中、在宅医療は継続しておりますが、基本的な感染予防を継続することが大事で、取り立ててこれといった対策などあるはずもないわけであり。今後、どうなるのか誰にもわかりませんが、世界と比べても日本の感染対策が全く遜色ないことは事実だと思います。2月の7日ごろから沖縄小学校でインフルエンザの流行がみられました。川西、高島で新型コロナ散発例がありますが、感染拡大は今のところみられないようです。置賜保健所の先生が必死に食い止めてくれると思います。この場をかりて、皆さんの日々の努力に感謝申し上げます。地震、風雪等の災害もある中で、通常の医療、介護が可能となるように、また日本の暮らしがもっと良くなるように努力してまいりましょう。

1月31日現在、人口10万人当たりの死亡者数（主要国worst10）		
1	ベルギー	182.1
2	スロベニア	167.9
3	イギリス	156.6
4	チェコ	151.7
5	イタリア	145.8
6	ボスニアヘルツェゴビナ	141.7
7	リヒテンシュタイン	136.8
8	北マケドニア	136.7
9	アメリカ	133.5
10	ブルガリア	129.0
ドイツ=68.1 日本=4.5 台湾=0.0		
1月31日現在、各国別の死亡者数（主要国 worst11）		
1	アメリカ	439,405
2	ブラジル	223,945
3	メキシコ	156,575
4	インド	154,147
5	イギリス	105,777
6	イタリア	88,279
7	フランス	76,006
8	ロシア	71,556
9	スペイン	58,319
10	イラン	57,889
11	ドイツ	56,878

ご挨拶

健康長寿課課長 市川 浩介



皆様には常日頃より、町の保健福祉事業に対しましてご指導ご協力をいただき厚く感謝申し上げます。さて、団塊の世代が75歳以上となる2025年。いわゆる「超高齢社会」の到来を目前にひかえ、高齢者の方ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる環境整備づくりが喫緊の課題となっています。そのために、地域包括ケアシステムの構築にむけ進めており、在宅医療・介護までの一連のサービスを確保していくことが必要となってきます。

また、これを実現するためには、医師・歯科医師・看護師・薬剤師・ケアマネジャー・介護士などの皆様の多職種間の協働が不可欠となっております。高島町在宅医療介護連携推進協議会でも、4つの部会が中心となり各種講演会や研修会、啓発事業などを展開していただいております。今後ともお互い情報を共有しつつ連携することが必要であり、顔の見える関係づくりが求められていますので、皆様のご支援よろしくお願い申し上げます。

最後に私ことになりますが、この3月末をもって定年退職になります。在職中はたくさんの方にお世話になりました。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のを賜りますようお願い申し上げます。

担い手紹介

ケアプランセンター竹とんぼ 管理者 主任介護専門員

八巻 奈保子 氏



今回ご登場願った方は、竹とんぼで管理者を務めておられる八巻奈保子氏です。もともと介護福祉士をベースに、施設に勤務していたが、平成16年に介護支援専門員の資格を取得して、現在の職場にお勤めです。現在看護介護部会で副部長もお引き受け頂いて、こちらも精力的に頑張っているようです。

地域包括ケアシステムを構築していく上では、高島町のコミュニティ規模は丁度良い大きさだとおっしゃる。何故なら、介護支援専門員をしていて、自分たちの考えや、発した言葉が、行政に反映されているということ、実感として感じられるからだとおっしゃいます。彼女のケアマネジャーとしての Motto はとお聞きすると、「利用者の人生が前向きで、楽しいものであるように」と願っており、その為と思うと頑張れる」と、だからリハビリを受けている方のように目的がはっきりして、そこに向かって頑張っている姿にはとても励まされると素敵な笑顔でおっしゃいました。彼女自身の持つポジティブさを痛いほど感じさせられたインタビューでした。

編集後記

まずはじめに、在宅サービスに従事される方々に心より感謝申し上げます。世界中が新型コロナウィルスに席卷されたまま越年し、不安と閉塞感に苛まれて3か月が過ぎてしまいました。今日、先進国では感染症など撲滅されたと高をくくっていた者（私も含めて）にとっては、晴天の霹靂以外の何物でもなかったかと思います。改めてウィルスの怖さを思い知らされるとともに、その中での在宅医療のあり方を再考させられる1年でもありました。しかも霹靂というにはあまりにも長い（収束までの時間が年単位）日々、その中で戦い続ける方々に心より敬意を表します。さて、今回の書下ろし寄稿は医師部会長の門脇先生にお願いいたしました。日本の感染対策が世界的に見ても遜色のないこと、基本的な感染予防対策を実施することが大切であることを教えていただきました。ワクチンの投与も始まり、いくらか明るい兆しが見えてきました。もう少しの辛抱です。 縮井 拝

11月25日 看護介護部会 地域在住高齢者に対する支援を考えるワークショップの試み

今年度第3回の看護介護部会は初めての試みである「ワークショップ」を開催しました。

看護、介護それぞれの立場で考えられる高齢者支援はいかなるものか、参加者相互の議論の中で見出してみようという試みです。ゲストスピーカーとして、調剤薬局部会長のSS調剤薬局島崎尚弧氏をお迎えし、調剤薬局部会で今年度より公立高畠病院と町内院外調剤薬局間で実施している「トレーシングレポート使用による相談事業」の実例を3例提示して頂きました。

参加者によるワーキングは、そこから引き出される種々の課題と、対する支援のあり方をブレインストーミング形式で参加者全員が表出し、これをカテゴリ分類、それぞれの課題と解決策を検討しました。慣れない試みではありましたが、終えてみての参加された方々の感想は、「高齢者を支援するうえで大切なことは何か」という問いかけに、「情報の共有化」と「多職種連携の必要性」の2つが重要であるという意見が多数寄せられました。今後、これを機に担当者や手続きなどの具体的な形や流れが検討されていくものと思います。



協力頂いた病院薬剤師さんのコメント



ファシリテーターの皆さんの講評



趣旨説明



ワーキング風景



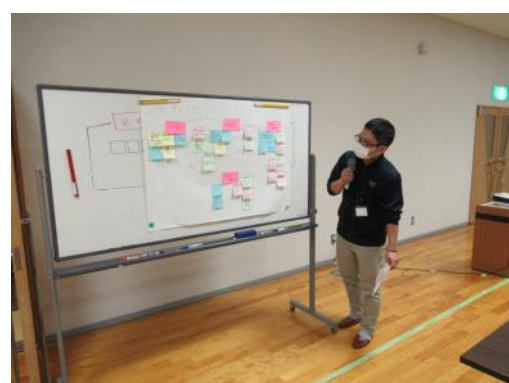
ゲストスピーカーのプレゼンテーション



情報共有のための発表



ワーキング風景



情報共有のための発表

10月28日 医師部会 医師と介護支援専門員との交流会

令和2年晩秋の宵、医師部会主催のケアマネジャーと医師との交流会が催されました。

先生方には、事前に介護支援専門員からの12項目に及ぶ質問や要望事項をお示しており、交流会はそれに直接お答え頂く形でスタートしました。

介護支援専門員の方々にとっては、先生方とまさに「ひざ詰め」でお話できる機会となりました。参加頂いた4人の先生方には、介護支援専門員からの多岐に渡る質問に、じっくりと腰を据えて対応して頂きました。



門脇先生グループ



泉谷先生グループ



金子先生グループ



粕川先生グループ